

企業の有利子負債圧縮が続く

資金循環統計によると、企業部門の有利子負債圧縮が継続しており、借入増加の動きは見られない。特に、純有利子負債は過去最低を更新し、企業行動の保守化が読み取れる。

海外部門の赤字縮小

2011年度の資金循環統計では、既に明らかとなっている、輸出減少と燃料輸入増加を受けた経常黒字幅の縮小に対応するかたちで、海外部門のフローの赤字幅（日本からの資金流出幅）が2010年度の15.6兆円から2011年度は8.1兆円へ縮小した。一方、海外部門の赤字の裏側にある国内部門の黒字を見ると、民間部門の黒字はほぼ前年度並みを確保したが、一般政府¹の赤字が33.0兆円から39.3兆円へ拡大し、黒字縮小に繋がっている。また、民間部門については、家計部門（家計+民間非営利団体）の黒字幅が拡大（14.5兆円→20.7兆円）する一方で、企業部門は東日本大震災などの寄与による減益も響き、黒字幅が縮小している（34.0兆円→26.8兆円、含む金融機関）。

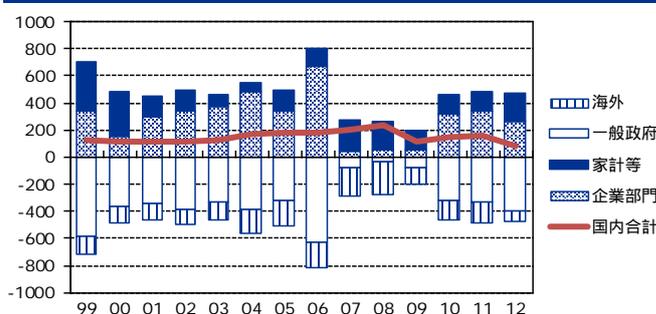
企業の有利子負債圧縮が続く

企業部門のフローの黒字幅は2011年度に縮小したが、金余りは変わらない。そのため、名目ベースの有利子負債は圧縮が続き、2011年度は前年度比3.3兆円（2010年度1.8兆円）と3年連続で減少した。なお、2011年度は、原発問題により電力会社の財務内容が悪化し負債が大きく膨らんだ。そうした電力会社の要因を控除すると、有利子負債の減少幅は4.6兆円（2010年度3.1兆円）まで拡大する²。

純有利子負債は過去最低を更新

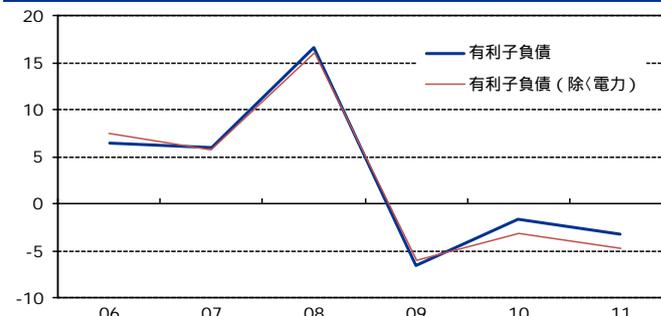
2011年度の有利子負債残高は2005年のボトムを上回っている。しかし、有利子負債から流動性を控除した純有利子負債残高で見ると、2010年度に続き、史上最低を2年連続で更新した。日本企業は歴史上、最も借入を行っていない状況にあると言えるだろう。こうした状況は、企業の財務内容改善という観点では好ましいが、企業行動が委縮もしくは保守化しているということも同時に意味し、日本経済の成長を考える上では好ましくない。

資金循環統計：資金過不足の推移（兆円）



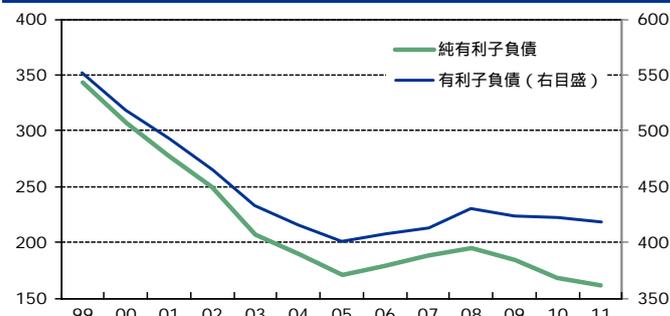
(出所) 日本銀行

企業部門の有利子負債の推移（前年度差、兆円）



(出所) 日本銀行

企業部門の有利子負債の推移（年度、兆円）



(出所) 日本銀行

¹ 日本銀行のような特殊要因（財政投融资特別会計からの繰り入れ要因など）の調整は施していない。

² 電力会社については、法人企業統計の資本金10億円以上の電気業データを用いた。